



世代や分野を超えて丸ごと繋がる地域づくり ～地域共生社会の実現に向けて～

1

地域ケア会議から見えてきた課題

【①認知症や精神疾患が疑われる高齢者の課題】

徘徊や近隣住民に対しての被害妄想などの課題が多くみられ地域の中での見守りや認知症の理解啓発がさらに必要。

【②複合的な課題を抱える世帯の課題】

高齢の親と障がいがある子の世帯の割合が増えており、支援者が分野を超えて繋がることや障がい特性の理解が必要。

【③潜在化している高齢者の課題】

ケア会議を開催した時点でどこの支援機関にも繋がっていない事例は47%と高く介入時に課題が重度化している現状がある。

2

対 象

地域住民 各関係機関 介護保険事業者 障がいサービス事業所

3

具体的な取組み内容

【①の活動内容】

- ・認知症講座を受講した地域住民や調剤薬局などへ高齢者110番の家の協力依頼や見守りチェックシートを配布した。
- ・スーパーイズミヤや各地域の集会所・憩いの家での出張相談会を開催した。

【②の活動内容】

- ・圏域内の病院と連携し、各地域において健康運動教室を開催した。
- ・新たに俳句教室を立ち上げ、既存の予防教室と同様趣味活動を通した社会参加による介護予防に取り組んだ。
- ・自主活動グループがデイサービスでのボランティア活動ができるようマッチング支援や文化祭の開催など地域住民が活躍できる場を作った。

【③の活動内容】

- ・医師会と連携し地域住民・地域関係者・専門職を対象とした地域ケアフォーラムを開催した。
- ・複合問題や困難事例については地域ケア会議開催し包括的に支援できる体制構築に努め、専門職の対応力向上と連携強化のため勉強会も開催した。



活動③ 地域ケアフォーラム

地域特性

【関目地域】地域福祉支援員を中心に、憩いの家や集会所にて相談カフェを開催。令和元年度は男性の孤立を予防するため、男カフェを立ち上げた。

【関目東地域】市営住宅の高齢化が進み住宅からの相談が増えている。

【葦地域】学校や障がい施設などが地域活動協議会に参画しており、つながりは強く世代間交流も盛んに行われている。

【鯉江東】地域主体で男性向けのカフェや麻雀・映画上映会等の取り組みが行われている。

4

取り組んだ成果と今後の課題

【活動①の成果】

地域の見守り相談拠点の増加や出張相談会の実施で、包括の周知が拡大され相談件数は昨年度より882件増加し5,616件となった。

【活動②の成果】

圏域内の病院との健康運動教室は、各小学校区で開催することで多くの方に参加いただき、介護予防を推進した。自主活動グループに対し、ボランティアマッチング支援をしたことで、不定期ではあるがデイサービスでのボランティア活動が始まった。生きがいや役割をもつことで自助力・互助力が向上し介護の重度化予防や認知症予防の推進に繋がられた。

【活動③の成果】

地域ケアフォーラムは196名の参加があり、地域と専門職で地域包括ケアシステムに必要なことについて意見共有することができた。ケアマネジャーやサービス事業所からの相談件数は1,093件から1,471件と約1.4倍の増加となり多職種の連携強化に繋がっている。

【今後の課題】

令和元年度は認知症が課題となるケースに加え、家族にも何らかの支援が必要なケースが多くみられた。包括の周知拡大や多職種連携強化により、チームで支援する体制が整いつつあるが、介入時には課題が重度化している現状が多くある。早期に相談に繋がる地域を目指し、「地域と専門職の連携強化」「専門職間のネットワーク強化」「支援者の対応力向上」に今後も努めていく必要がある。

包括からのひとこと

令和元年度は地域関係者や圏域の医療機関と連携し、孤立しがちな男性をターゲットとした取り組みや、地域住民の介護予防・認知症予防を目的とした活動に取り組みました。また、認知症をより身近に感じていただく機会としてケアフォーラムを開催し、地域の中で認知症高齢者を支える体制づくりにも努めました。

今後も地域・多職種・多機関の繋がりを強化し、支援の必要な方や世帯が早期に適切な機関に繋がるよう活動してまいります。

区役所からのひとこと

地域での活動を積極的に行い、連携した活動を展開しています。孤立しがちな男性をターゲットにした取り組みや病院と連携した健康運動教室など、アイデア豊かな活動を行っています。地域や関係機関との繋がりを大切にし、早期に相談が繋がる地域づくりに尽力されています。引き続きよろしくお願いいたします。



ミニネットワーク拡大作戦

1

地域ケア会議から見えてきた課題

地域ケア会議の対象者の多くが認知症の方であり、圏域内でも支援する側が高齢者になってきている現状がある。一人ひとりの負担を減らすためには、包括の役割や介護保険制度等を知る機会を継続して作って地域で見守りを行う人たちを増やし、包括と地域関係者がお互いの役割を認識し、連携して見守るしくみづくりをしていく必要がある。また、これまでに活動してきた人に対するスキルアップ、対応力向上も続けなければならない。

2

対 象

圏域内各地域のネットワーク委員、ふれあい員、民生委員、老人会、地域活動協議会等、日常的に高齢者の見守りを行い、ニーズキャッチをする方々

3

具体的な取組み内容

①ネットワーク委員会等に出席し、地域との関係を強化。見守り活動の支援を行う。

②認知症や高齢者虐待等についての知識を深め、対応力をアップする。

今年度の活動目標を上記のとおりとし、具体的な活動として以下の取組みを進めた。

①圏域内各地域の会議等に参加し、地域との関係強化を図った。

- ・いきいき百歳体操(27回)やステップ教室(14回)、ふれあい喫茶(10回)等に参加し、包括の周知と参加者の実態把握を行った。
- ・定例で実施されるネットワーク委員会や地域活動協議会の福祉部会等(会議等19回・行事等8回)に参加し、包括の周知と地域情報の収集を行った。

②認知症や介護保険など高齢者の関心がある内容の学習会・研修会を開催した。

【令和元年度実績】

- ・地域女性会学習会「認知症について」
- ・老人会勉強会「認知症について」
- ・老人クラブ研修会「高齢者の低栄養について」
- ・地区ネットワーク委員会「認知症サポーター養成講座」
- ・地域ネットワーク委員研修「認知症の疾患とその対応について」
- ・老人会「認知症予防教室」
- ・老人会勉強会「介護予防について」「認知症について」



地域特性

圏域は鶴見区の東端に位置し、圏域内の高齢者人口は9,072人となっている。茨田東地域は33.7%と鶴見区一高齢化が進んでいる一方で、旧家屋の多い茨田北地域は家族と同居されている人も多く、高齢化率17.3%と鶴見区一低くなっている。消防車も救急車も入れない路地が多くある茨田北地域や川で東西に二分されている茨田地域などでは、福社会館から離れた場所からは地域活動に参加しづらい状況もある。

- ・老人会勉強会「高齢者の住まいについて」
- ・地域ネットワーク委員会研修会「高齢者の住まいについて」

また、認知症強化型地域包括支援センターとして、「認知症の方への声かけ模擬訓練」に継続して取り組んでいる。

4 取り組んだ成果と今後の課題

これまでの成果として、地域担当の包括職員が様々な地域活動やネットワーク委員会等に参加することで包括を周知し、顔なじみの関係を作ることができている。また、そのきっかけとして研修会などを行い、認知症の疾患や対応方法、介護保険の手続き等について伝えてきた。実施後のアンケート結果を見ると「わかった」「よくわかった」と回答した人が約90%あったため、地域の活動者のニーズに合わせた学習の機会を提供することができたと思われる。

このように圏域内の各地域へ活動を展開し、ネットワークを強化し、顔の見える関係づくりを進めてきたが、地域によってかかわりの度合いにまだまだ違いがあることが今後の課題である。具体的な相談となると地域住民からの件数が少なく、つながることが少ない地域がある。より具体的に包括の役割がイメージできる広報物を作成することで相談をしやすくしていきたい。座学だけでなく、「声かけ模擬訓練」のように実際に動いてみる研修を開催することも続けていきたい。

また、つなげ隊(地域福祉コーディネーター)を中心に地域関係者と定期的に情報共有や意見交換する機会をつくり、地域の課題抽出・分析をしていくことも必要と考えている。その活動を通して包括との関係づくりをするとともに、地域関係者の対応力の強化につながればと考えている。

包括からのひとこと

地域関係者は役員の交代があり、包括職員にも異動等があるため、継続した関係を作っていく難しさを感じています。ただ、人が変わっても役割は変わらないため、包括の役割を正確に伝えることを意識しています。取り組みを重ねることで役員でなくなったとしても協力してくれる人が増えていき、より強固なネットワークになると思います。一つひとつの事例によってできたネットワークを次の事例へ活かしていけるよう取り組みます。

区役所からのひとこと

地域関係機関・組織へ包括の活動についての周知に取組み、顔の見える関係づくりを進め定着してきています。定期的に地域関係者(つなげ隊を中心に)と情報収集や意見交換を実施することで地域の課題を分析し、今後の活動計画をたてています。異動等で担当者が変わっても、地域とのネットワークを生かし発見・早期対応ができる体制づくりを構築しており、地域の頼りになる存在です。区役所としても後方支援に協力できればと思います。



支え愛、南の輪

1

地域ケア会議から見えてきた課題

ひとり暮らし・日中独居で認知症があり見守り支援を必要とする高齢者が、地域ケア会議を通じて多く見られた。オートロックのマンションでの見守りや、もともと孤立している方の見守りなどの課題が見える。また、地域では支援が必要であるが関わり方が難しく分からないなどの課題も見える。見守り体制も含め、早期発見、早期対応ができる体制を整える必要があると思われる。

2

対 象

地区の役員及び住民

3

具体的な取組み内容

活動方針は、包括のみならず圏域内にある介護保険事業者にも参加を依頼、合同で研修会やイベントを開催し介護保険事業者と地域の顔の見える関係作りを行う。圏域内での見守りををはじめとするネットワークを構築する。

「ネットワークミーティング」2地域に対して実施

毎月概ね2回定期的に1時間半常駐している地域と毎月1回不定期に実施する地域

意見交換を中心にイベントの企画を提案する場

両地区ネットワーク委員会

「地域で支えあうために認知症を知ろう」講演会（包括単独実施）

「認知症声掛け模擬訓練・意見交換会」(介護保険事業者・包括共同実施)

地域別

「いきいき百歳体操・リズム体操」(介護保険事業者・包括共同実施)

「緊急通報システム事業について」説明会(包括単独実施)

「防災訓練ミニ講座」(介護保険事業者・包括共同実施)

包括と介護保険事業者協働で広報誌作成、各地域に回覧配布



地域特性

寝屋川より南に位置する地域。区役所に行くには川にかかる橋を越えて行く必要がある。橋は3か所しかなく、また、公共交通手段であるバスの運行数も少なく、高齢者にとっては不便である。2つの地域とも区内で1、2を争う高齢者の多い地域である。街並みとしては新しいマンションがあるかと思えば、戦前からあるような文化アパートもある。公営住宅が3か所あり、高齢者が多く住まわれている。

4

取り組んだ成果と今後の課題

介護保険の制度が始まり、今まで地域で見守りなどかかわりを受けていた方が、介護保険事業者がかかわることで、地域の方がかかわれなくなったという話がある。今回は地域と介護保険事業者の間の誤解を解き双方で見守り活動ができる体制の第一歩であったように思う。

体操の場面では、介護保険事業者と包括で元気な高齢者との意見交換の場ができて、地域の中に多くの事業者があることを知ってもらえた。

認知症声掛け模擬訓練では、意見交換で地域の思い、また介護保険事業者の思いをわずかではあるが共有できたように思われる。

課題としては、包括の活動は地域の会議などを通じて周知することはできるが、見守り活動になると多くの方の人的な支援が必要になる。圏域内39の介護保険事業者の力も借りて見守り活動を行うには、介護保険事業者の周知も包括同様に必要である。今後も地域と介護保険事業者の橋渡しをすることが重要である。

包括からのひとこと

今年度から圏域内にある介護保険事業者の連絡会を立ち上げ、地域活動に積極的に参加をしてきた。地域と介護保険事業者・包括との意見交換を繰り返すことで、お互いを理解しあい、地域に住む高齢者の生活を守りたいと思います。

区役所からのひとこと

地域の関係機関や地域住民に向け、介護保険事業者と合同で研修会等を実施し、顔の見える関係づくりを構築しています。地域と介護保険事業者が協働で見守り活動体制づくりを実施し、包括が高齢者のネットワークの中心として活動されていると実感しています。高齢者になってもずっと住んでいたい街づくりに向けて活動しています。今後も包括と介護保険事業者の連携組織「サウスホール」の活動により、「見守りの輪」をつなげてください。



高齢者を地域で支えるネットワークづくり

1

地域ケア会議から見えてきた課題

認知症があるひとり暮らし高齢者及び閉じこもりがちの高齢者の多くは近隣との付き合いがなく孤立している状況である。その中でも町会未加入の方は把握が難しく、問題が複雑化してからの発見に至るケースとなる。

2

対 象

担当する圏域にお住いの65歳以上の高齢者

3

具体的な取組み内容

○商店街の広場を活用しミニマーケットを開催

- ・町会・支援者の有志で立ち上げたミニマーケット運営委員会の後方支援を行い、休憩所を設置し、来場された方へ相談周知活動を行う。
- ・生活支援コーディネーターと協働してボランティアの周知活動。



○各地域にて定例で小地域会議を開催し、地区ごとの世帯数・高齢化率、生活資源など、地域の現状と地域で起こっている問題や課題を地域役員、支援機関等の専門職とグループワーク等にて情報交換や課題抽出を行い、支援が必要な高齢者を早期に発見・連携の取り組み等検討を行った。

地域特性

再開発地区も含まれている圏域であり、地域住民のつながりが希薄になっているところがある一方で、町会が活発に活動を行い地域の基盤の底上げを行っている。

4

取り組んだ成果と今後の課題

【取り組んだ成果】

- ・ミニマーケットに来られた方に対して、身近な相談窓口としての周知活動ができている。月に1回の開催ではあるがリピーターも増え、買い物だけではなく、休憩所にて他の方と交流を楽しまれる方も増えてきている。その中で地域の役員の方々、専門職が相談に関わることも増えてきた。

来年度より連合町会の行事としてミニマーケットが明記されることとなり、まだ周知が行き届いていない方への案内もできるようになった。

- ・ミニマーケット等地域での活動を通して会議を開催し、「孤独」や「孤立」により今後支援が必要になってくる方への早期発見、早期対応を地域住民、専門職と一緒に検討できる機会となった。
- ・地域の現状を把握していくためには、各町会の核になる方とのつながりが必要であり、定期的に地域で起こっている問題や課題、支援機関等の専門職ができる事などを話す場ができたことで、今後の協力体制を深めていくきっかけ作りができた。

【今後の課題】

まだネットワークづくりのきっかけの段階に過ぎないので今後様々な提案や問題に関係者が立場の枠を超えて話し合える「場所」を深めて行ければと考える。



包括からのひとこと

令和2年4月より阿倍野区北部包括を受託させて頂くこととなりました。社会福祉法人嘉誠会です。コロナ禍であり地域の皆様は不安を抱えておられるかと思います。阿倍野区北部包括では「いつまでも元気で自分らしい」を支えるためのくらしや介護の相談窓口として、専門的、継続的な視点からの支援を行います。皆様のご期待に添えますよう、職員一同全力をもって取り組んでまいります。

区役所からのひとこと

ミニマーケットに来られた方に対して、相談を行うというアプローチは独自性のある取組と感じています。前法人の包括と地域は今まで様々な事業やイベントを通して協働してきました。4月に新包括オープンと自粛の時期が重なり、地域とのきっかけづくりが難しい状態ですが今は少しずつ地域との関係性を確立しています。地域との関係がさらに深まるよう区役所も応援します。



身近な地域での支え合い ～人に触れる場所がある街づくり～

1

地域ケア会議から見えてきた課題

- ・安立、敷津浦地域に孤立する高齢者がみられる。
- ・地域の見守る目が必要。
- ・包括としての役割の周知が必要。

2

対 象

安立・敷津浦地域の住民

3

具体的な取り組み内容

- ・行事については、これまでの行事を継続し、さらに住民が参加しやすい興味関心のある内容を考え実施している。
- ・災害時に助けを求める救助ステッカーを作成した。
- ・「大和川団地にお住まいのみなさまへ」と題したパンフレットを作成し対象世帯に全戸配布した。(地域の相談先について、それぞれの役割とともに顔写真付きで連絡先等を掲載することで相談しやすい環境をつくった)
- ・新たに歌声サロン開催した。
- ・オレンジカフェまる(認知症カフェ)の定期開催
- ・各種体操に参加(包括も参加し相談窓口を設置)
- ・おでかけホッと広場の開催(参加者皆で相談して決めた場所へのお出かけ、昼食会、ゲームや健康体操などを実施。ひとりではなかなかお出かけ出来ない住民だけでなく、地域支援者、ボランティアの方にも参加していただき、共に行動していただくことで、「地域の見守る目」を拡大していくことも狙いとしている)
- ・地域が主催するふれあい喫茶に参加し相談窓口を設ける。
- ・寺子屋の開催(高齢者の仲間作りの機会、体操や認知症予防などのプログラムを実施)
- ・画楽多亭くつろぎの開催(消費者被害等の注意喚起をはじめ、様々な制度の説明等、地域の方の希望を中心に実施し参加しやすい内容を設定)
- ・安立商店街でのイベント時、包括の相談窓口ブースを設置。
- ・認知症強化型地域包括支援センターと協同して作成した地域住民用地域カルテを使い地域で勉強会を開催した。

地域特性

- ・大和川周辺の地域は交通の便が悪く、商店や医療機関が少なく不便。
- ・南海住之江駅周辺など場所によっては商店や病院交通機関があり、住みやすい。
- ・高齢化率の高い市営団地がある地域と開拓された若い世代が多く住むマンション等がある地域が混在している地域もあるが、全体的に高齢化率が高い。
- ・あったかネットサポーター等地域支援者の活動が活発。

4

取り組んだ成果と今後の課題

- ・相談件数が増え、効果がみられている。
- ・「大和川団地にお住まいのみなさまへ」パンフレットを全戸配布したことで、顔の見える関係性づくりの一環となり、住民からも相談先が分かりやすくなったと声がある。
- ・月一回包括と地域の共催で体操教室を行っている。その後に続けて歌声サロンを実施することで、参加しやすい状況を作り、徐々に参加者数が増えている。
- ・商店街での相談窓口に、看護師も参加し、血圧測定や無料健康相談ブースを設置したことで立ち止まっていただけの住民の方が増え、包括の周知につながった。
- ・少しずつ地域住民の意識に変化が見えはじめ、見守りの意識やポイントが以前より強化されつつある。(地域住民やネットワーク委員、民生委員等から直接包括へ相談していただけるケースが増えている)
- ・地域カルテにより、地域の方に具体的な数値を示すことで、より浸透しやすい形で地域の現状を伝えることができた。
- ・課題として、体操教室などで使用している地域の会館の老朽化や急な階段を上らなければならないなど、参加意欲が低下してしまう方もいた。



住民が集まる場については、感染症対策が必須であるが、会場のハード面により困難な場合もある。集まらなくても、閉じこもり予防できる取り組みについても対策していく必要があると感じている。

包括からのひとこと

孤立する住民をなくす取り組みは、地域包括ケアに直結する問題です。

公的な支援者の関わりだけでは、地域の実情の把握、本当に支援を必要としている方の把握が困難です。地域にどれだけ「見守る目」を作っていけるのか？をテーマに地域支援者と共に取り組んできました。

時に地域支援者と悩み、模索する中で、少しずつ地域の中に見守る目が育ち、ネットワークの構築に繋がっていると感じています。

区役所からのひとこと

包括は、地道な活動を継続し、地域と密に連携をとりながら、日々活動されていると実感しています。地域活動協議会への参画や、地域ネットワーク委員会との連携により、高齢者支援の中心機関として相談件数も増加し、地域にも信頼される存在です。今後も引き続き、地域の活動の中で、ネットワークの幅を広げ、見守る目の増加から孤立防止への取り組みを継続していきましょう。引き続きよろしくお願いします。



小地域における見守りネットワークの構築

1

地域ケア会議から見えてきた課題

- ・ひとり暮らし世帯や高齢者世帯、高齢・障がいの複合世帯に対する支援困難ケースが増加している。
- ・地域との関係が希薄であり、生活実態が把握しにくい。

2

対 象

- ・ 連合振興町会、民生委員協議会等の地縁団体

3

具体的な取組み内容

平成30年度から継続している各種地縁団体(連合振興町会、民生委員協議会・女性団体協議会)やあったかネットコーディネーターとの意見交換から、困りごとの早期発見には、地域ネットワーク委員会の活動の見直しが必要との意見が挙がり、区社会福祉協議会の協力を得て、地域ネットワーク委員会を再構築し、令和元年5月より月1回の定例会議を実施している。

地域の課題や各種情報の共有の機会を設けることができ、共有した地域の課題から民間の集合住宅にて高齢者の実態把握調査を実施。

また、地域の生活上の課題や、医療機関に関する課題については、生活支援コーディネーターや在宅在宅医療・介護連携コーディネーターとも連携し地域課題について共有を図った。

一昨年から先行して実施している地域では、定期的に福祉専門職と町会長等との懇談会を開催し、現在の地域の状況を共有することができている。



地域特性

公営高層住宅や古くからの長屋が多く残る地域が混在。高齢者世帯も多く、その中でも一人暮らし高齢者も増加している。町会活動はあるものの、そこに参加できない方々も多く、閉じこもりがちの高齢者が増え、近隣の繋がりが希薄になってきている。

4

取り組んだ成果と今後の課題

ネットワーク委員会を再構築し、月1回各種地縁団体(連合振興町会、民生委員協議会・女性団体協議会)、社会福祉協議会、圏域内医療機関保健師にて、地域の情報や課題について共有し、民間の集合住宅にて高齢者の実態把握調査を実施。町会加入者のみの調査となったが、半数近くの高齢者から回答を得ることができた。得た回答をもとに住民同士の見守りネットワークの構築や活動の機会の創出等の取り組みに繋げていく運びとなった。

また、ネットワーク委員会を定期開催することで、地域から自発的に意見が挙がってくることが増え、中止にはなったが防災体験会の開催等もネットワーク委員会として計画することができた。

小地域ごとで取り組みに対する意識や活動に差がある。

今年度においては、取り組みが十分に進んでいない地域においても地縁団体との意見交換の場を設け、課題や意識の共有から進めていくことが必要である。

包括からのひとこと

包括・ランチで対応しているケースの課題や、地域住民が感じている高齢者の困りごとについて、互いに共有することで、見守りネットワークの構築の必要性について意識が高まりました。身近なことから話してもらうことで、自発的な意見や提案してもらいやすくなっています。

区役所からのひとこと

地域との話し合いの継続によりネットワーク委員会の定期開催が行われ、地域内で顔の見える関係づくりや、地域の課題の共有や支援が必要なケースの早期発見にも繋がっていると実感しています。また、地域の協力のもと、実態確認調査等の取り組みから、見守りネットワーク構築や次の取り組みへと繋がっているなど、地域との信頼関係を構築し、地域の課題を素早くキャッチする取り組みを行っており、心強い存在です。